

第8号様式（第9条関係）

武蔵野市生涯学習事業費補助金事業実績報告書

武蔵野市長 殿

武蔵野市生涯学習事業費補助金の交付決定を受けた事業について、武蔵野市生涯学習事業費補助金交付要綱第9条の規定により、添付書類を添えて、下記のとおり報告します。

記

報告年月日	令和7年3月31日
団体名	武蔵野漢詩愛好会
代表者の肩書及び氏名	亜細亜大学名誉教授 夏目重美
事業名称	公開講演：日本文化の源泉を辿る －芭蕉の「おくのほそ道」と漢詩文
事業目的	日頃の研究活動の成果を基礎としつつ、広く武蔵野市民ほか一般に公開する講演会を実施し、学びの機会と地域の活性化に寄与する一助となすことを目的とする。
事業対象 ※主な対象者、定員等を記入すること。	・講演会及び当日展示会：市民ほか50名（講演会場の入場制限人数） ・展示会：市民ほか不特定多数（1月初旬～2月下旬の間、武蔵境市政センター付近）
実施日時 ※日時、時期、期間、時間、回数等を記入すること。	講演会：令和7年2月23日（日） 展示会①講演会当日会場：午前10時から午後5時頃 ②武蔵境展示会場：1月初旬から2月下旬
実施場所 ※施設、会場、地域等を記入すること。	講演会：武蔵野市かたらいの道市民スペース全会議室 展示会：①講演会当日武蔵野市かたらいの道市民スペース全会議室 ②武蔵境市政センター付近クオラギャラリー
参加者から徴収した費用等 ※金額、単位（人・組・回）等を記入すること。	なし
事業内容 ※テーマ、形態（教室・講座・講演会等）、講師・指導者等がある場合はその氏名、略歴等を含めて具体的に記入すること。	主たる事業は公開講演の実施である。講師には、國學院栃木短大教授、国文学博士塚越義幸氏を招聘した。同氏は芭蕉の紀行文の背景に見られる漢詩文に関する研究の第一人者であり、「おくのほそ道」については、とくに造詣が深い。 従たる事業は展示会の実施である。展示会は、講演会の事前広報を目的としつつ、「おくのほそ道」自体の事前学習としての意味を賦与した。展示物には、版画家坂田燦氏の『版画集おくのほそ道』から版画部分を写真製版して展示した。同版画集は、山形県立博物館や封人（ほうじん）の家（芭蕉の宿泊した伊達と最上の国境の番人の家）にも展示される著名な作品集である。坂田燦氏の許可を得て写真製版と展示利用を行った。
募集、広報 ※事前申込みの有無、申込方法（ハガキ・電話等）、ちらし・ポスター・ダイレクトメール等の配付枚数及び配付場所、時期等を具体的に記入すること。	当初のチラシには、会場の入場制限を勘案し、事前申込を必要とする旨を記載した。途中からは事前申込を不要とした。当初のチラシの内、回収可能な部分は訂正した。チラシ（A4サイズ）は300枚ほどを印刷した。配布場所は、開館中の市内全コミセン、クオラギャラリー前、武蔵野プレイス、かたらいの道市民スペース、市役所生涯学習スポーツ課窓口などにて配布した。チラシのほかには、市報、ポスター（展示会場にチラシの拡大版を掲示）、会員のよる口コミなどによって広報した。

成果、効果 ※参加者、実施団体、市等への効果等を記入すること。	本事業の成果は、芭蕉の「おくのほそ道」の全行程の理解、俳諧と俳句の相違など基礎的事項の知識を深くするとともに、紀行文中の旅立ち、平泉、象潟の各部分を取り上げ、漢詩文の影響を具体的に理解できたことにある。また、こうした理解を前提として、芭蕉の人間性や文学的独自性、芭蕉の目指す文学的狙いを理解することも可能となった。 このような成果は、添付のアンケート結果などから、参加者一般にもあてはまり、新たな知の獲得に効果的であったと思われる。実施団体にとっては、今後の研究活動や事業計画の礎となる効果をもたらした。 なお、実施判断の最終主体としての市においては、比較的関心の薄いと思われるがちの漢詩文であっても、俳句など今日の人気を有する内容と結びつけて企画することにより、それなりの集客と効果をもたらす可能性のあることをご理解いただければ幸いである。
--	--

注

- 1 本様式に書き切れない場合は、別紙（A4サイズ、様式自由）を作成し、添付してください。
- 2 ちらし、当日の資料等があれば添付してください。

添付書類

- 1 武蔵野市生涯学習事業費補助金事業決算書（第9号様式）
- 2 補助事業に係る領収書等
- 3 その他市長が必要と認める書類

